

## 音楽科

### 音楽的感受性を高め、豊かに表現する児童を育てる指導の工夫

#### ◎ 主題設定の理由（紀要97ページ）

- ・前研究主題「感性を働かせ、主体的に音楽にかかわろうとする児童を育てる指導の工夫」の成果と課題及び児童の実態から。

#### <成果>

- 音楽と言葉を結び付けることにより、音楽から感じ取ったイメージを言葉で伝え合ったり、歌詞からイメージを膨らませたりする力が高まった。
- 録音した自分たちの演奏を聴くことにより、児童は自分たちの音楽を振り返り、よりよい演奏を目指して積極的に表現しようとする事ができた。

#### <課題>

- 児童の意識が技能の向上に集中してしまい、明確な思いや意図をもって演奏するという点については十分でなかった。
- 思いや意図をもっていても、音楽と結び付けるための方法を知らなかったり、適切な方法で結び付けていなかったりする様子が見られた。

#### ◎ 音楽科で目指す児童像（紀要98ページ）

##### 音楽的感受性を高めた児童

- 音楽を形づくっている要素に注目しながら鑑賞することができる児童
- 音楽を聴き、感受したことを基に、思いや意図をもち、よりよい表現を考えることができる児童
- 自分の思いや意図に合った適切な表現を選んだり、決めたりすることができる児童

- 自分の演奏を客観的に評価し、それを基に思いや意図及び表現を再構成することができる児童

##### 豊かに表現する児童

- 思いや意図と音楽をこれまでの音楽活動を生かして結び付け、音や音楽で伝えることができる児童

#### ◎ マスターキーと問題解決過程との関連について（紀要99ページ）

音楽科研究主題の「音楽的感受性を高め、豊かに表現する」ことは、自分の思いや意図を実際の表現に近付けていくために、試行錯誤することを通して主体的に音楽に関わろうとする児童の姿といえる。よりよいものを目指して、それを実現させるための手法を考えたり、生み出したりして（水平思考）、明確な根拠の下に選択し（垂直思考）実行していくことは、他教科にも通ずる「学びの本質」であるととらえている。

以下に、「水平思考」と「垂直思考」を伴った、課題を解決していくため学習場面を示す。

- 第3学年「音楽づくりを楽しもう～れっ車の音をさがそう・れっ車の旅の音楽をつくろう～」

##### 水平思考

- 問題把握力  
様々な楽器を使用して「列車の音」を探すことを認識し、学習の見直しをもつ。
- 発想力  
表したい音に対する自分の考えが複数浮かび、再現しようとする。
- 分類・整理力  
踏切の音を再現するために、楽器の音色を感じ取り、音の出し方等の表現の仕方について複数の考えをもつ。

##### 垂直思考

- 分類・整理力  
踏切の音に似ている楽器をまとめる。
- 分析比較力  
自分が選んだ楽器とその理由について友達のもの比べ、話し合う。
- 取捨選択力  
自分が表したい音に合った楽器を、根拠に選ぶ。  
自分が表したい場面に合った表現方法を根拠に選ぶ。

視点1 鑑賞と表現の関連を図った指導の工夫

手立て②：「鑑賞—表現—鑑賞」となる学習過程を設定する。

〈波多江 6年1組「沖縄風の音楽を味わおう」〉

第1時では、「安里屋ユンタ」「谷茶前」を鑑賞し、第2～4時では鑑賞で感じ取った沖縄の音階や旋律、リズムなどを表現に生かす学習を行った。本時では、グループでふしを組み合わせる前に、題材の初めと異なる曲である「ていんさぐぬ花」「唐船ドーイ」を鑑賞する時間を設け、児童が感性をより働かせて鑑賞したり、音階、旋律、リズムなどをふしづくりの参考にしたりできるようにしていく。鑑賞と表現の関連を図ることで、音楽を特徴付けている要素への感受性を高めていく。

視点2 音楽科における思考力・判断力・表現力を育む学習過程の工夫

手立て③：児童一人一人の思いや意図を重視した学習過程を構築する。

〈波多江 6年1組「沖縄風の音楽を味わおう」〉

ふしづくりの場面では、どのような沖縄の音楽にしたいかという一人一人の思いや意図を重視し、聴き合ったり話し合ったりする場を設け、自分たちの求める表現と実際の音を近付けていくようにする。

手立て③：児童一人一人の思いや意図を重視した学習過程を構築する。

〈工藤 2年1組「リズムにのってあそぼう」〉

「おいしいパフェ」に入れる材料を考え、どのようなパフェを作りたいかグループで話し合いを繰り返すことで、音楽づくりに思いや意図をもてるようにする。児童が考えた材料のイメージを根拠に、その材料に適した音色の打楽器を選び演奏することを通して、児童が思いや意図に適した表現を考えることができるようにする。

手立て③：児童一人一人の思いや意図を重視した学習過程を構築する。

〈波多江 1年3組「がっきらんどを たんけんしよう」〉

「ばなのくに」では、ハーモニカで旋律奏を行い、さらにリズム伴奏を加えていくことで簡単な合奏を楽しむようにする。グループ練習では、一人一人の児童が、音を合わせる方法や音色の組合せについて考え、友達と試行錯誤していくことで、思考力・判断力・表現力を高めていく。

手立て③：児童一人一人の思いや意図を重視した学習過程を構築する。

〈橋本 4年2組「楽器の音色を感じとろう」〉

四つのパートを演奏する児童の人数は教師が設定せず、児童がバランスを考えるようにすることで、自分の思いや意図に沿った表現を求めて、感性を働かせて学習に取り組むようにする。

手立て④：思いや意図と表現をこれまでの音楽活動を生かして結び付けるようにする。

〈工藤 2年1組「リズムにのってあそぼう」〉

材料に適した音色の打楽器を選ぶ際に、なぜその楽器を選んだのかを児童に問いかけるようにし、児童の思いと楽器の音色の関連性を意識できるようにする。材料に適した音色の打楽器を選ぶ際に、これまでの音楽活動の中で演奏したり聴いたりしてきた打楽器を用意することで、自分がイメージする音色とこれまでの経験の中での音色を結び付けられるようにする。

手立て④：思いや意図と表現をこれまでの音楽活動を生かして結び付けるようにする。

〈橋本 4年2組「楽器の音色を感じとろう」〉

これまでの演奏経験を基に、自分たちの表現に合った音色の楽器を複数選び、音に出して音色を分析比較することで、イメージと表現を近付けるようにする。